

第3回世田谷区外部評価委員会 議事要旨

【日 時】平成28年5月23日（月）午後7時00分～午後9時00分

【場 所】世田谷区役所第3庁舎3階 ブライトホール

【出席者】

■委 員 浅輪剛博、大森猛、齋藤啓子、柴田真希、高木史雄、松田妙子、森岡清志
（以上7名）

■ 区 板谷政策経営部長、山戸庁内連携担当課長、笹部政策企画課長、加賀谷
財政課長

【配布資料】 資料1 3つの新しい評価軸による行政評価実施要領（案）

資料2 評価シート作成補助資料（案）

資料3 評価シート(案)

資料4 評価シート作成のためのチェックシート

資料5 基本計画重点政策抜粋（若者）

資料6 政策評価シート（若者が力を発揮する環境づくり）

資料7 世田谷区外部評価区民ワークショップ(案)

【議事概要】

1. 開会

2. 新たな評価軸の検討について

(1) 説明

ー山戸庁内連携担当課長より、資料1～資料6に基づき、新たな評価軸の検討状況について説明を行った。ー

(2) 外部評価委員からの主な意見

- ・ 資料3・資料4はこれまでの議論を反映して簡略化しており、若干の修正以外は確定とする。今後は、資料1の説明をより分かりやすくすることが必要である。
- ・ 新たな評価軸を設定する理念や必要性を、資料1の冒頭により丁寧に記載した方が分かりやすいのではないか。また、アウトプット・中間アウトカム・最終アウトカムの説明についてもより分かりやすくする必要がある。
- ・ また、資料1について、評価シートの背景や理念を記載するパートと、記入マニュアルのパートを明確に分けた方がよい。
- ・ 資料3について、成果を記載する際には自由回答で具体的に記入してもらった上で、それを定量的に表現できるのであれば記載してもらった形式にするのがよい。また、自由回答の記入欄の大きさ等も工夫した方がよい。

- ・ 資料4について、チェックシートを活用することで、アウトカム指標を導き出すことができる。チェックシートは研修などで活用することは非常によい。評価シートとチェックシートの各役割を、実施要領に記載する必要がある。

3. 世田谷区外部評価区民ワークショップについて

- ・ 既に詳細なスケジュールが組まれているが、検討段階における委員会ではここまで細かなスケジュールの提示は必要ない。
- ・ ワークショップのタイトルと内容が異なっているので修正が必要である。
- ・ ワークショップで出た意見の活用方法について、より深く検討することが必要である。
- ・ ワールドカフェ方式はセッション②の内容の方が適している。また、短時間に外部評価について理解することは難しいため、より丁寧に説明する時間を設ける必要がある。
- ・ ワークショップは始まるまでが緊張するので、参加者が場に馴染めるように、アイスブレイクの時間を設ける必要がある。

4. 次回のスケジュール

- ・ 6月10日（金）午後7時～を予定している。

(以上)

第3回世田谷区外部評価委員会 議事録

午後7時開会

1. 資料の確認

－山戸庁内連携担当課長より、配布資料の説明を行った。－

2. 新たな評価軸の検討について

(1) 説明

－山戸庁内連携担当課長より、資料1「新たな評価軸検討シート（案）」に基づき、行政評価シート（案）について説明を行った。－

(森岡委員長)

- ◆ 前2回の委員会においては、これまでの行政評価にはない『参加』と『協働』、「横断的連携」、「改善」という3つの評価軸によって施策を評価する必要があるとの認識のもと、施策の評価シートについて議論して参りました。前回の委員会では、評価シートは可能な限り簡潔でわかりやすいことが望ましいというご意見が出されました。それに基づいて修正した評価シートがお手元に配布されております。
- ◆ 本日は、この修正した評価シートについて、20時20分から25分程度まで自由に議論いただき、その後で区民ワークショップの開催についてご意見をいただきたいと思っております。区民の方々から新たな評価軸について意見を広くうかがい、今後の外部評価委員会での検討材料にしたいと思っております。
- ◆ 私からの質問ですが、資料1の1ページ、図表-1のタイトルに「3つの新しい評価軸の関係」とありますが、図を見るとPLAN、DO、CHECK、ACTIONの4つが目につき、3つの新しい評価軸のわかりやすい表示がありません。内容的にはこれで良いにしろ、書き方に工夫が必要だと思っております。

(山戸課長)

- ◆ 1ページ下部に「2. 3つの新しい評価軸の定義」と書いてあるのですが、次ページにわたっていることもあり、わかりづらくなっている気もします。図表と評価軸の定義がリンクして理解しやすくなるよう工夫し修正します。

(森岡委員長)

- ◆ 図表-1は、新しい評価軸の定義の後が良いかもしれません。ACTIONが「改善」ということで、評価軸で唯一前面に出ていることも混乱を招いているようです。

(齋藤委員)

- ◆ PDCAサイクルは別の概念なので、縦軸にPDCA、横軸に3つの新しい評価軸と配置すれば良いと思います。

(森岡委員長)

- ◆ PDCAとの関連と、PDCAそのものの説明とが文章化されていませんので、「2. 3つの新しい評価軸の定義」の次にPDCAの説明、その次に3つの評価軸とPDCAとの関連の説明があり、その後で図表が示されるとわかりやすいと思います。文章をつくる際に、短くしなければと思ったために冒頭部分がわかりにくくなってしまったのではないのでしょうか。冒頭は丁寧にわかりやすくした方が良いと思います。
- ◆ 6ページについて、評価シートで私たちが注目したいのはアウトプットではなくアウトカムです。5ページの「⑤「成果」について ■概要」に「指標は、何をどれだけ実施したかを示すもの（アウトプット指標）ではなく、・・・(中略)・・・成果・効果を示すもの（アウトカム指標）を記載してください」からわかると思います。評価シートでは、どの部分がアウトプットでどの部分がアウトカムにあたるのか、きちんと説明した方が良いと思います。もしくは、チェックシートにはアウトプットを、評価シートにはアウトカムだけを記載するように5ページの文章を変更してはどうでしょうか。

(山戸課長)

- ◆ 現行の政策評価シートはアウトプットで書かれているため、新しい評価シートでアウトカムを記入するように言われても、施策によっては難しいものもあります。

(高木委員)

- ◆ 「中間アウトカム指標」、「最終アウトカム指標」とありますが、中間や最終と言われてもピンときません。もう一度ご説明いただけませんか。

(山戸課長)

- ◆ 中間アウトカム指標はアウトプット指標とほぼ同じです。事例では中間アウトカム指標を参加者数600人としています。これは、普通に考えるとアウトプットですが、参加者数が増えたことで最終的に若者の就業率の上昇に寄与できたと考え、中間アウトカム指標として記載しています。参加者数を目標値にしてしまうと単なるアウトプットで終わってしましますが、最終アウトカム指標に寄与した途中経過ということでこのような記載にしています。

(森岡委員長)

- ◆ アウトプットとして出た数値を、とりあえずどう評価するかが「中間アウトカム指標」であり、それがどう最終的成果に結びつくかの予想が「最終アウトカム指標」ということだと思います。
- ◆ 評価シート自体ではなく、評価シートを説明する文章をもっとわかりやすくすべきだと思います。

(山戸課長)

- ◆ 記入例と相対して見ないと理解いただけない状態ということですね。

(森岡委員長)

- ◆ アウトプット指標とは何をどれだけ実施したか、これは非常にわかりやすいのですが、アウトカムには実施したことを自分たちがどう評価しているかも含まれているのだと思います。説明文をもっとわかりやすくすべきだと思います。

(柴田委員)

- ◆ 資料4の指標が変化するところに実績がありますが、どのように変化したかを文章で記入することになっています。3つの資料が一度に綴じられて提示されるのかわかりませんが、成果の概要で中間アウトカム指標と最終アウトカム指標を数字で表してしまうと、そちらの方がわかりやすいため、定量評価になってしまう気がします。資料8でも、職員数や従事時間数、事業費がどのように変化し、それがどのように影響してアウトカムがこうなったという言葉と数字の連携がわかりにくいと感じます。数字だけで評価できない部分をプロセスとして評価したいとの思いで始まったはずですので、アウトカムが数値だけになってしまうのは違うと思います。

(森岡委員長)

- ◆ 資料4（チェックシート）は、資料3（評価シート）の裏づけとなるものを整理するためのものでしょうか。

(山戸課長)

- ◆ はい。まず資料4（チェックシート）を使って作業することにより、評価の内容や事業の進捗を理解しながら資料3（評価シート）を書くことができると考えます。

(森岡委員長)

- ◆ 場合によっては資料3だけ提出しても良いのでしょうか。

(事務局)

- ◆ 資料4（チェックシート）をまずは勉強して欲しいという思いがありました。完全にしようとする大変つらくなるという意見もありましたが、私たちの概念のエッセンスがすべて入っているものなので、自分で勉強させるのではなく、研修で必須にしてはどうかと考えています。勉強してもらったうえで、資料2と3の提出に着手してもらいイメージです。

(山戸課長)

- ◆ 評価軸を使って評価する前には、必ず評価軸の説明会や研修等を庁内で行います。その際には、チェックシートを使って評価軸を理解していただくつもりです。チェックシートを使用しないと評価シートが記入できない場合も多いと思われます。

(松田委員)

- ◆ 中間アウトカムが定量評価になっているというお話がありましたが、数値を出したうえで、なぜそれを目標としたのかはチェックシートをやってみると意味がわかり、ちゃんとしたアウトカムにたどり着けると思います。慣れてくれば必要ないかもしれません。

(森岡委員長)

- ◆ 柴田委員のご心配は、数値ばかりが並んでいて、それをどう評価してどこに向かうかがわからなくなるということだと思います。それは記述で説明しなければわからないことであり、それこそが知りたいことなのだと思います。資料3（評価シート）は、かなり記述するようになっていきますので、生かせると思います。資料4（チェックシート）は、その下敷きになる数値として整理してもらおうという位置づけで理解して良いでしょうか。

(山戸課長)

- ◆ はい。資料3の裏面には「4 引き続き解決に向け取り組むべき課題と・・・」という記述欄もありますので、ここで具体的に記入いただくことで補完できると考えます。

(齋藤委員)

- ◆ 研修などと組み合わせてチェックシートを記入する機会を設けることは非常に良いと思います。
- ◆ 数値を書くことのメリットは、ある事業は盛り上がらないのに他の事業はうまくいったという場合に、比較して要因を分析する客観的根拠になることです。自分の事業以外のものを知り理解するためには、資料が必要になると思います。

- ◆ チェックシートと評価シートの各役割をノウハウブックにきちんと記載すれば、もっとうまくいくと思います。

(松田委員)

- ◆ チェックシートを作業用にしてしまうと、他の事業と比較できないと思います。これをするので、つらくなるのではなく、自分たちのやってきたことを前向きに評価できると思います。

(山戸課長)

- ◆ つらくなるというのは事務量負担のことだと思います。これまでの評価では、これほどの分量のものを書くことはありませんでした。重点施策は特定の所管に偏っていますので、そこだけに事務負荷がかかっています。重点施策を持つ所管では本体の事務量も多いため、チェックシートの作成が加わると時間的、肉体的、作業的につらくなるということだと思います。
- ◆ チェックシートを一度も作成しないで評価シートを新しく作成することはできないと思います。これまでも政策評価の見直しは何度か行われましたが、評価が新しい仕組みになった時には、根拠となるものを作成しなければ評価シートの記入はできませんでした。

(柴田委員)

- ◆ 中間アウトカムと最終アウトカムの数値には、裏づけやストーリー、課題や成果が裏に隠されていると思います。評価シート裏面の指標名の欄にアウトカム指標がくると思いますが、ここに数値が入ることで変化の推移がわかります。
- ◆ その下が「4 引き続き解決に向け取り組むべき課題と・・・」となっていますが、ここに数値を自己評価する欄が必要ではないでしょうか。ストーリーをもって数値を裏づけることで全体が集約されると思います。

(齋藤委員)

- ◆ 評価シートの3では(1)でどの程度解決したかを文章で記述し、それに対する具体的な数値を(2)に記載するという順になっています。

(森岡委員長)

- ◆ (1)に文章で記した効果を、もし数値化できるならば(2)に記入するという構成になっていますが、(1)の記述欄が非常に狭く(2)の数値欄が広いので、数値欄が目立ってしまいます。

(松田委員)

- ◆ (1)に「課題はどの程度解決しましたか」とありますが、解決できなくても良いと思います。むしろ課題として残ったことや、そこから見えてくるもの、数値が表わしているものを客観的に書くべきではないでしょうか。

(齋藤委員)

- ◆ 設問で「どのような成果が得られましたか」としているのに、次の(1)で「課題はどの程度解決しましたか」となっているのは違和感があります。

(森岡委員長)

- ◆ 成果について自由に具体的に記入してもらったうえで、それを定量的に表現できるならしてくださいとした方が良いでしょう。
- ◆ 記入欄の大きさに記入する人は引きずられるものです。もう少し工夫願います。

(松田委員)

- ◆ 新たな課題が見つかることもあります、それも成果です。課題→解決とされると違和感があります。

(森岡委員長)

- ◆ (1)にどのようなことを具体的に記述して欲しいかを、資料1で説明した方が良いでしょう。
- ◆ 評価シートは、細かい修正以外はほぼこれで良いと思うのですが、いかがでしょうか。

(浅輪委員)

- ◆ 評価シートの3については、順番を入れ替えればわかりやすくなるように思います。
- ◆ 資料1を見ながら評価シートが書けるのか心配です。
- ◆ チェックシートの説明シートも別途あるのでしょうか。それとも口頭で説明なのでしょうか。

(山戸課長)

- ◆ チェックシートは研修時に口頭で一つひとつの項目を説明するつもりです。

(森岡委員長)

- ◆ 私も浅輪委員同様、資料1を見ながら評価シートが書けるのか心配です。理屈っぽい話が多く、何をどこにどう書けば良いかの説明が丁寧でない気がします。
- ◆ 評価シートを記入するうえで頭に入れておいて欲しい前提をまず書きますと明示し、

その後で、具体的にどう書けば良いかを示せば良いと思います。そこで特に何を知らたいと思っているかを明示してはどうでしょうか。

(浅輪委員)

- ◆ 最初にポリシーを入れ、書き方については、資料3の図を示しながらどこに何を書かかを逐一示した方が書きやすいと思います。

(森岡委員長)

- ◆ 資料1に、考え方や見方といった理念の部分と、評価シートの書き方マニュアルの部分の両方を書かなければならず大変だったのだと思いますが、背景や理念を良く理解したうえで評価シートを書くようにという書き方にして、マニュアル部分は単純にわかりやすくしてはどうでしょうか。

(柴田委員)

- ◆ 7ページの具体例では「参加」と「協働」を分けて記載いただき、とてもスッキリしました。

(松田委員)

- ◆ プルダウンも分かれたのでしょうか。

(柴田委員)

- ◆ はっきり主体と区分が分かれているのだから、分けた方が良いと思います。

(森岡委員長)

- ◆ これまで出されたご意見をもとに評価シートを若干修正していただき、資料4についてはほぼこれで良いと思います。問題は資料1で、評価シートが書きやすくなるよう工夫をお願いいたします。

(松田委員)

- ◆ 資料はプリントアウトを見ることが多いですか。ウェブで見ることが多いですか。参考資料に写真が掲載されているだけよりも、ホームページへのリンクが貼付してある方が良いと思うのですが。

(山戸課長)

- ◆ 庁内のシステムはダイレクトにインターネットにアクセスできません。インターネット専用パソコンにてプリントアウトしたものを見ます。

(高木委員)

- ◆ 資料4については、これ以上簡単にするのは難しいと思います。やはり資料1の説明が重要だと思います。
- ◆ 毎年の成果を書きやすい事業もあれば、防災のように首都圏直下地震が起きてみなければ成果分析のための比較を行うことが難しい事業もあります。あまり細かいところをチェックするのではなく、横一列で並べられるようなところで評価できると良いと思います。私たちが参加したことで新しい3つの評価軸ができたのですから、とにかくこれを基に進めていただきたいと思います。

(森岡委員長)

- ◆ 議題1については他にご意見もないようですので確認したいと思います。資料3は若干の修正以外は確定ということでしょうか。(異議なし)
- ◆ 資料4は何度も議論を重ねましたので、ほぼこれで良いと思います。
- ◆ 資料1については様々な意見が出ましたので、それを基に改善をお願いいたします。次回の小委員会では事務局で修正したものを提出いただき、それについて簡単に検討したいと思います。
- ◆ では、議題2に移ります。ワークショップについてご説明をお願いいたします。

3. 外部評価区民ワークショップの開催について

(1) 説明

ー山戸戸内連携担当課長より、資料7「世田谷区外部評価区民ワークショップ(案)」に基づき、外部評価区民ワークショップ(案)について説明を行った。ー

(森岡委員長)

- ◆ ご質問がございましたらお願いいたします。

(浅輪委員)

- ◆ ワークショップを行う目的が書いてありますが、区民から出された意見によって再度評価シートが変更されることはあるのか、それとも書きぶり程度の修正になるのかが読み取れません。どうなのでしょう。

(山戸課長)

- ◆ 区民の方からは、「参加」と「協働」の取組みについての案などを頂戴できれば良いと思っています。
- ◆ 第一の目的は行政が想定している評価軸を知ってもらうことにありますので、ワークショップで出されたご意見による評価シートの修正は想定していません。

(柴田委員)

- ◆ 前半は「新しい評価軸」に基づいてあらかじめ内部評価を行った行政評価シートを題材にして、当該事業について参加者が「良いと思ったこと」「疑問に思ったこと」「不十分、改善が必要と思ったこと」などを付箋に書きだして」とあるとおり、内容についてののみ議論するのでしょうか。

(山戸課長)

- ◆ 前半は、アイスブレイクも兼ねたワールドカフェ方式ですので、重点施策の中身を理解していただくことも含めて想定しています。
- ◆ 「若者」「子育て支援」「高齢者」「地域防災」など、区民の方が身近に感じやすい4つの重点施策を取り上げようと考えています。

(柴田委員)

- ◆ 「参加」と「協働」に限るというのは、例えば「若者」事業において、プルダウンの「参加」と「協働」のところだけを見ていき、「施策の機動的な修正・拡充」等の部分は省くということでしょうか。「若者」事業が参加と協働を受けてどのように進んだかを誰かが説明し、それに対して意見を出すという進め方なのでしょうか。

(山戸課長)

- ◆ 取り上げる事業について説明したうえで、議論していただきます。各グループにはファシリテーター(政策経営部職員を予定)を置いて説明できるようにするつもりです。

(森岡委員長)

- ◆ ワークショップの具体的な進め方等について、担当課内でまだ議論が十分でないように思われます。次回の委員会までに、どのように進めて、区民からどのような意見を聞き、それをどう反映させるのかについて話し合ってみてはいかがでしょうか。
- ◆ 本日は、委員の皆様からご意見をうかがうことにしてはどうでしょうか。

(山戸課長)

- ◆ はい。ご意見を頂戴できればと思います。

(森岡委員長)

- ◆ ワークショップでは、評価軸そのものの変更が必要になる意見は出ないと思います。もっと具体個別的な部分に対して意見が出されるでしょう。例えば、資料3を区民にもっとわかりやすい表現にして欲しいなどです。その場合、どう対応しようとお考えですか。

(山戸課長)

- ◆ 評価は公表するものですので、区民の方にわかりづらいものでは意味がないと思います。ある一つの項目について、わかりづらいというご意見が集中した場合は、再考の余地があると思います。

(森岡委員長)

- ◆ 評価シートは区民にわかりやすいよう心がけて記入するように資料1で強調するという手もあります。

(柴田委員)

- ◆ デザイン性の問題もあるように思います。

(齋藤委員)

- ◆ 資料3は記入内容と設問の字体が同じため、見分けがつきにくいと思います。「(1) (B) で実施した・・・」など記号が多用されている行政的な書き方も、普通の人にとっては主語がなくわかりにくいと思います。こういった記述の仕方に関するご意見が出されるのではないのでしょうか。記入欄を設問欄よりも2倍くらいの大きさにするなど欄の大きさの大小を工夫したり、書かれている文字の色を変えたりと、ちょっとしたことでわかりやすくなると思います。
- ◆ 計画する際にどのような参加を経たのか、実施段階での参加と協働はどのようなものだったのか、全体としてどのような参加と協働があったのか、という3段階に分けてあることが理解されると、事業が段階を経て進められたことがわかってもらえるはずです。
- ◆ ワークショップの最後に区民からアイデアをつのることになっており、事業に対するアイデアが寄せられると思いますが、外部評価シートがこういうことのためにも使われると良いと思われるでしょう。
- ◆ 出された意見については、「成果の活用方針」に「評価シート記入要領における『参加』と『協働』の取組み例の充実を活用します」とありますが、取り組みの記入例の充実なのか、事業の今後の充実なのかがわかりにくいと思います。両方の充実だと良いと思います。
- ◆ 体験するシミュレーションであることをあらかじめ明確にするというのも一つの方法で、それとは別にご意見を聴取します、とうまく分けられると良いと思います。

(大森委員)

- ◆ 資料7の3ページからワークショップの進め方がこと細かく書かれていますので、一度このとおりにやって意見をいただければ良いと思います。

(齋藤委員)

- ◆ 施策をチェックしながら進めていることや、「参加」と「協働」に関しても、すくいあげるような仕組みを「新しい評価軸」という形でつくろうと試みていることを、まずは説明すると思います。そのうえで、もっとこんなことができますと出された区民の意見を評価としてどのようにすくいあげるができるか、一緒に考えてみましょうという進め方になるのではないのでしょうか。

(浅輪委員)

- ◆ この評価シートを限られた時間で理解し記入するというのは、あまり現実的でないように思います。
- ◆ ご理解いただくこと・周知することが目的ならば、前半の第一部としてワールドカフェなどを3分程度、3つの評価軸それぞれをテーマにして3クール行うのはどうでしょう。最初に、「参加」と「協働」はどういうことかを理解してもらいます。区が実施しようとしていることについて、どういうことができれば参加で、どういうことがあれば協働かについて意見をシェアします。次に「横断的連携」について、庁舎の外からではわかりにくいにして、区民の視点からどんな意味があるかを話し合います。こうして3つの評価軸を前半で理解していただきます。
- ◆ 休憩をはさんで後半では、区民の方が評価シートに書き込むのではなく、4つの事業の専門職員とグループをつくって、職員が評価例を示し、それに対して質疑応答したり自由に意見をいただいたりします。それを吸い上げる中で、評価シートの書き方の問題点等が職員に理解されると思います。評価シート自体を変えてはというご意見も、書き方へのご意見も両方が出て、深まる会になると思います。

(柴田委員)

- ◆ 進め方のアイデアなのですが、私が今まで行ってきたワールドカフェは、20分で1人を残して次のところへ行くことの繰り返しで、いろいろな意見を重ねるという動きのあるものでした。前半は、「参加」と「協働」などの評価軸を理解し、4つの事業内容も聞いて理解するという座ってじっくり行うものであり、インスピレーションで動いていくワールドカフェには合いません。後半にワールドカフェを持ってきた方が合っています。「高齢者」事業ではこんな参加や協働ができる、別の事業ではこうできるというように、20分ごとに各事業グループを移動し、前向きなプレスト的意見を自分のアイデアとして出すことができます。

(松田委員)

- ◆ 柴田委員の意見に賛成です。公募でくる人やそうでない人など、募集時のモチベーションがバラバラなのが気になります。どのような割合なのでしょう。

- ◆ テーマが4つに分かれていることを明確にして募集するのでしょうか。明確にするかどうかでくる人も大きく変わると思います。テーマごとに2グループと書いてありますが、あるテーマから動きたくない人も出るのではないのでしょうか。
- ◆ 1グループ6人は多いので1グループを4～5人程度にすべきだと思います。あるいは、施策について説明できるファシリテーターをグループごとではなく班ごとに置き、事業についての直接の批判や要求に流れないように、批判や要求の存在を認めたとえでどう評価するかを話し合う方向にコントロールする必要があります。

(森岡委員長)

- ◆ 基本構想の策定過程でこういう形式を始めて取り入れたのですが、無作為抽出された区民のレベルが高いことに驚きました。1グループの人数を何人にするかは、会場の大きさによって決まるテーブル数と、参加人数によります。基本構想の時には88人きました。5人程度が良いとしても、場合によって6～7人になってしまうのはやむを得ません。

(松田委員)

- ◆ 無作為以外に公募の人もいましたか。

(森岡委員長)

- ◆ いませんでした。

(松田委員)

- ◆ そこが問題なのです。無作為だけならばフラットでできますが、公募の人は思いを持ってきますので、他の人に影響を及ぼしてしまいます。

(森岡委員長)

- ◆ 基本構想ワークショップに参加していた人に基本計画の時も参加していただきましたが、私は良いことだと思います。これまで参加機会がなかった人が、参加してみて再度やりたいと言ってくれました。それが区政にとっての資産だと思います。今回も、そのような人たちとネットワークをつくっていく気持ちで関係を継続して欲しいです。
- ◆ 基本構想時の経験者、無作為抽出、公募の3層からなる怖さがありますが、人数調整はしやすくなります。メリットもデメリットもありますが、まずやってみる事です。
- ◆ 大森委員からスケジュール管理が細かすぎるといったご意見が出されましたが、これは事務局が正直すぎるのです。実は、進め方をこの委員会で見せる必要はないのです。職員だけが持ってレクチャーを受け、進めれば良いのであって、私たちが知る必要は

ありません。

(松田委員)

- ◆ 参加者にも見せる必要はないと思います。

(齋藤委員)

- ◆ 1グループには6人くらいの方が良いと思います。多様な立場で参加する人がいますので、人数が少ないと偏りが出る危険があるからです。6人いればいろいろな人が混ざるとと思います。最初のころから参加しているという思いのある人もいれば、外部評価という言葉は初めて聞いた人まで、様々な6人がいるからこそ面白くなると思います。
- ◆ 中身のことが題材でなくても、例えば、世田谷区にどれくらい住んでいるとか、区の施策に参加したことがあるかどうかとか、自分の経歴を少しずつ紹介できるような題材の方が、ウォーミングアップになり、次の議論に入りやすくなると思います。
- ◆ ファシリテーターは必要です。

(松田委員)

- ◆ 6人いると絶対に話せなくなる人が出てくるので、コントロールする人が必要です。

(齋藤委員)

- ◆ それはファシリテーターの力量だと思います。

(柴田委員)

- ◆ 職員がファシリテーターになると、説明したり苦情を受けつけたりでフラットに話せないと思います。職員の方が「ちょっと待ってください」などと制御するのは難しいように思います。

(山戸課長)

- ◆ これまでそうしてきました。基本構想の担当係長をしていた際にワークショップを2回経験しましたが、20分単位のワールドカフェのファシリテーターを職員が務めました。参加者は88人で、場所は本日の開催場所であるブライトホールでした。
- ◆ 今回のワークショップ会場となる産業プラザでも基本計画のワークショップを行いました。その時はもう少し小規模でした。去年も開催しています。

(森岡委員長)

- ◆ 基本構想の時は大人数でしたので大変な熱気で、発表も専門性がかなり高いすばらし

いものでした。

(柴田委員)

- ◆ ワーク①のタイトルが「～をつかってみよう」となっていますが、今の話と違ってしまいます。

(山戸課長)

- ◆ 本日のご意見を基に事務局で練り直し、次回の小委員会までに案を作成いたします。

(森岡委員長)

- ◆ 7月31日にご参加いただける委員の方は挙手をお願いいたします。参加された場合は、ワークショップを見て、最後に感想をひとりずつ述べることになります。
- ◆ 次回は、進め方は必要ありません。大事な部分を詰めたいと思います。

(松田委員)

- ◆ ワークショップは始まるまでが緊張するので、来た人から場に馴染んでいけるように、自己紹介の前に何らかの仕掛け（何かを書いて名札にする、どこから来ているかシールを貼るなど）があると良いと思います。

(森岡委員長)

- ◆ 経験に基づくご意見は非常に参考になります。

(山戸課長)

- ◆ この日はひととき保育も設けるつもりです。
- ◆ 緊張しないよう工夫します。

(森岡委員長)

- ◆ 本日の議題については以上でよろしいでしょうか。（異議なし）
- ◆ 次回の小委員会では、本日のご意見を基に修正されたものをご提示いただきます。次回の説明をお願いいたします。

(事務局)

- ◆ 次回の第3回外部評価委員会小委員会は、6月10日19時～21時を予定しております。また、場所は第一庁舎5階庁議室で開催いたします。
- ◆ 当日は、本日のご意見を反映させ修正した資料をご用意します。
- ◆ ご欠席になる委員の方には会議資料を送付させていただきます。別途ご意見などを頂

ければ幸いです。

午後9時閉会